

かなめ会 会報
 神戸女子短期大学同窓会
 会報第11号
 発行
 学校法人 行吉学園
 神戸女子短期大学
 同窓会かなめ会
 〒650-0004
 神戸市中央区
 中山手通2-23-1
 TEL・FAX
 078(231)1052

学長就任にあたって、皆様へのご挨拶

神戸女子短期大学 学長 洪 愛子



2025年4月に神戸女子短期大学学長（同大学学長兼務）に就任いたしました洪愛子です。創立85周年を迎える歴史と伝統のある行吉学園で本短期大学の学

長を務めることになり、大変光栄であるとともに、責任の重さに身が引き締まる思いです。昨年公表された2025年度入学生をもって募集停止となることを大変重く受け止めております。本短期大学の75年の歴史とかなめ会のみなさまの思いを胸に刻み、すべての在学生が卒業した後も、創設者である行吉哉女先生の大事にされた女子教育への熱い情熱と全身全霊を捧げられた行吉ご夫妻のご努力を次の世代にしっかりと伝えてまいる所存です。

私自身は2017年に本大学に着任しました。本短期大学と同じキャンパスにある看護学部の教育に携わりながら、2023年には副学長の役割をいただき、短期大学の学生とも挨拶やことばかけをするよう日々こころがけています。2020年から一時期は、新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響で対話や交流が制限されるといふ困難な経験を強いられました。現在はキャンパスも賑やかさを取り戻しました。

一方で、教育にICTが取り入れられ、学習の利便性は向上していることはもちろんですが、対面で向き合うからこそ得られる、五感を駆使した非言語コミュニケーションが貴重であることを日々感じています。授業時間以外に学生らが楽しく語り合い、学んでいる様子に触れるたび、教員冥利に尽きる思いです。

本短期大学の学生時代に経験されたこと、学ばれたこと、得た友人は卒業生の皆さんにとつて、生涯忘れられないご自身の宝物のひとつでしょう。現在、国内外において地球規模の環境問題や戦争や紛争、自然災害や感染症など予測不能な出来事がいつでも起こりうる状況です。こうした社会を力強くしなやかに生き抜く力を育てていけるよう、一人一人の学生を大事に、教職員一丸となって真摯に取り組んでまいります。かなめ会のみなさまにはぜひご指導、ご支援をお願い申し上げます。

最後になりましたが、かなめ会会員のみなさまのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

略 歴

- 大阪市立大学経済学部卒業
- 東京医科歯科大学大学院
- 東京医科歯科大学大学院 医学系研究科保健衛生学専攻修士課程修了
- 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科環境社会医歯学系専攻博士課程修了
- 2017年 神戸女子大学教授
- 2019年 看護学部長
- 2023年 神戸女子大学・神戸女子短期大学副学長

神戸女子短期大学 学生募集停止のお知らせ

同窓会(かなめ会)存続のお知らせ

会長 羽多 悦子
 14期 服装科



行吉学園史誌を読み返してみると「神戸女子短期大学は昭和25年（1950年11月）服装科創設認可を得て1期生27人が入学式を挙行した」と記録されている。初代学長行吉哉女先生より「1期生は学生数より教職員数のほうが多かった」と当時の喜びと混乱の様子を繰り返し伺い山あり谷ありの学園経営でさぞかしご苦労続きであったらうと想像しながらも、その度に神戸女子短期大学を誇らしく思った。

2000年頃から18歳人口が次第に減少、他短期大学の多くが学生募集停止をはじめた。「すべての他短期大学が閉鎖しても行吉学園は閉鎖しません」の言葉に励まされたり戸惑ったりしながら学生達が喜ぶ学園・社会から期待される学園を目指して教職員一同努力をかさねた。（昭和40年より私も教職員）

創設より75年が流れた現在（2025年）神戸女子短期大学は学生募集を停止すると学園理事会が決定、この上も無く寂しい思いがした。18歳人口の激減・高学歴社会・学校教育の無償化の進行等で短期大学よりも大学・大学院への進学者が増加しているのが現状である。

神戸女子大学・神戸女子大学大学院が神戸女子短期大学を吸収し、今後益々成長繁栄していくものと願っている。2025年度に入学する短期大学生が最後の神戸女子短期大学生となる。彼女たちの今後、短期大学生生活の応援・社会生活の支援において神戸女子大学事務局が応援するとの約束をして頂いた。

かなめ会新入会員は2027年3月入会者（2028年卒業生1部含む）が最後となる。かなめ会会員は約3万人（以後の新入会者は0名）で今までどおり存続、総会は当然、会務のすべてが存続する。

私の二年間

伊藤愛理
(総合生活学科2年生)



高校時代、総合学科に通っていたこともあり高校の時のように

自分で授業を選択して様々なことを学び続けたいと考え、神戸女子短期大学の総合生活学科を選びました。

神戸女子短期大学では私が想像していた以上にいろいろな授業があり、衣食住はもちろんたくさんの分野について二年間学ぶことができました。

私は高校生の時に初めて触れた中国語に興味があり、短期大学でも中国語を学ぶことができました。新しい知識を得ることができると同時にやりがいを感じ、学ぶことの楽しさを覚えました。今まで、学びに対して楽しさを見い出すことがなかったのですが、短期大学生生活において深く印象に残っています。また、新しいことに出会う機会もあり、この二年間で自ら行動する大切さやチャレンジすることの大切さを実感することができました。

これらの経験を社会人になっても生かし、成長し続けたいと思います。

在学生のひろば

食の大切さ

棚倉千佳
(食物栄養学科2年生)



私はこの二年間で、食に関する勉強はどんなことでも学びたいと

思い取り組みました。学んできたことと全てが私の視野を広げてくれ、とても充実した学生生活だったと感じています。

さまざまな出逢いがありましたが、栄養士を目指して鼓舞しあえる仲間と出逢えたこと、寄り添い支えてくださった先生方と出逢えたことは、私にとって貴重な経験となり、どんなことでも前向きな気持ちに変えることができました。この二年間の素晴らしい学習環境の中で栄養士になりたいという夢が揺るぎない目標になりました。また、仲間と共に学び得たことが心の栄養となり私を大きく成長させてくれました。感謝の気持ちでいっぱいです。

卒業後は幼保連携型認定こども園の栄養士として新たな一歩を踏み出します。神戸で学び経験したことを活かし、食の楽しさや大切さを伝え、社会に貢献していきたいと思っています。

保育士をめざして

泰地彩央
(幼児教育学科2年生)



中学の頃から憧れていた保育士になるため、地元和歌山を出て神

戸で一人暮らしを始めました。最初の頃は知らない土地、初めての大学生活にたくさん戸惑い、何度も挫折しそうになりました。それでも乗り越えられたのは、先生方のあたたかい寄りそいと友達との楽しい日々、そして遠くから応援してくれていた家族のおかげだと感じています。

私が神戸女子短期大学に入学しようと思ったのはオープンキャンパスのときです。先生方、先輩方の雰囲気がとてもあたたかく、「私もこういう保育士になりたい」と感じました。この印象は入学後、そして今も変わっていません。親身になって相談に乗っていただき、支えてくださった先生方本当にありがとうございます。神戸女ではたくさんの方に出会えました。この先も皆さんの人と出会えますように。

先ず、友達に出会えてよかったと心から思っています。本当にありがとうございます。

◆ かなめ会 TOPIC ◆

阪神・淡路大震災から30年

宮崎智子(旧姓 古川)
44期 家政科栄養士コース



30年前の1月17日は、給食管理の大量調理実習の日で、私は栄養士役の班長をしていました。授業で作業計画や発注など班員と協力して準備し本番を迎えるのみでした。あの日、学校に行くべきなのか非常に悩み、同じ班の友だち数人で相談し、神戸の被害が大きそうなので、大学から指示があるまで自宅待機することにしました。その後は授業もなく、後期試験もなしで、単位が足りず卒業できないのではないかと非常に心配しました。3月18日、予定された会場ではなく、ポートピアホテルで卒業式が執り行われました。当日は大阪から3時間以上かけて、J-Rと阪急を乗り継いで三宮まで行き、そこから歩いてポートピアホテルへ行きました。途中、倒壊した家屋やポットライナーの橋桁が崩れていたり、混乱の中での卒業式でしたが、先生方や友達と無事に再会でき大変嬉しかったことを思い出します。

短大では興味がある分野ばかりで、非常に楽しく勉強できました。クラブも栄養研究部に所属し、学園祭では郷土料理の模擬店を開いたり、ボランティアで子ども料理教室や高齢者の昼食会などのお手伝いをしたり、勉強もクラブも非常に充実した生活を送りました。しかし最後は普通では味わうことができない思い出となりました。卒業後20年間は腎臓病専門病院、脳神経外科専門病院で勤務し、今は特養で管理栄養士として働いており、その間には、結婚、出産、親の介護などありましたが、周囲の協力を得て仕事も続けられ、栄養に関係する資格もいくつか取得することができました。今後は、高齢者の嚥下障害に関する勉強を本格的にやっていきたいと思っております。

夢に向かつて

鈴木恵子(旧姓 安田)

21期 初等教育科 兵庫県明石市



私は小さい頃より教師という仕事に憧れています。「先生になりたい」と言っていたのを覚えていて、地元の短大の中で初等教育科を備えている学校は少なく、迷うことなく神戸女子短期大学に入学しました。明石で生まれ育った私には、三宮という都会に電車通学できることで胸がワクワクする毎日でした。授業は、一般教養に加え音楽、体育、絵画などの実技もあり充実した二年間でした。

あるきっかけで愛知県の採用試験を受け合格しました。ところがいざとなると、知らない土地にたった一人で行く不安で数日間悩んでいました。そんな矢先、それまで何も言わなかった父が、「(石の上にも三年)と言うことわざがある様に三年間やってみてだめだったら帰って来たらいい」と、背中を押してくれました。夢の第一歩です。

その日以来、愛知で三年、兵庫で二十九年間小学校の教師を続けることができました。未熟な私を支えて下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

生活の中で思うこと

松下美重子(旧姓 俣山)

22期 家政科栄養士コース 香川県さぬき市



私は商業高校で、そろばん、簿記などを学びましたので、家政科に進学することに、受験当初は戸惑いがありました。面接時に、家政科にはカロリー計算があり計算は役に立つと言っていたこと。また、栄養士の学びは、家庭の中や身近なところで生かされるので無駄になることはない、担任の先生から聞かされた言葉がなぜか強く残っていました。

栄養士と中学教諭の資格を持って、卒業することが出来ましたが、どちらの資格も仕事に結びつけることが出来ませんでした。入学前に、父親から「勉強したことは、将来、邪魔になることはない。」と応援してもらっていました。結婚し、三人の子育て中は、学んだことが日々の食事づくりに生かされたと思います。さらに、五十歳になった時、介護支援専門員を受験しました。



同窓生のひろば

取得していた介護福祉士の資格と共に栄養士の資格も受験に生かすことが出来ました。

寮生活をしたことが、日常生活の中で人との関わり方や人によりそうことなど基本的な姿勢を学ばせてもらったのだと思います。名刺には栄養士も共に明記し、七十一歳まで、介護支援専門員として働きました。

これからも「健康第一」で明るく暮らしていきたいと思っています。

大切な時間を過ごして

井谷祐子

36期 服装科 大阪府大阪市



わたしは子どもの頃から洋服が好きで、コーディネートなど考えるのが好きだったので服装科のある神戸女子短期大学を選びました。大阪出身であるわたしは、三宮駅から生田神社の横道を通って山へ向かって歩く通学路が好きでした。

当時は中山手通りにキャンパスがあり少し上がると異人館があり神戸という街に通っているという嬉しさを感じていました。勉学に励んだ記憶は薄いですが、和裁と洋裁の実習は楽しくて、一枚の生地を洋服に仕上げていくこと、反物を着物に仕上げていくことが自分の自信につながっていったと思います。当時の先生方がとても熱心に丁寧に教えてくださったことに心より感謝しています。おかげさまでファッションのスタイリストという仕事にたどり着き、実習で学んだことが仕事に活かされて、現在も続けています。

御縁はつづく

有田美香(旧姓 戸田)

42期 家政科栄養士コース 兵庫県神戸市



「ただ食べる」と料理を作ることが好き」というだけで、家政科栄養士コースに進学。入学した時は、朝から夕方までぎっしり詰まった時間割にびっくりした事を今でも覚えています。給食管理の授業が今の職業の原点になると

は、夢にも思っていないませんでした。

現在は、小学校の栄養教諭として勤務し、気がつけば三十二年。何度も何度も退職しようと思いましたが、その時々にはそばで支えてくれる方に助けていただきながら、今日の日を迎えています。退職までの時間の方が短くなった今は、「自分の体は、自分で食べたものでできていること」や「奥歯でよく噛んで食べること」の大切さを小学校の子どもたちに繰り返し教えながら、私がこれまでに学び得た「食」の大切さについて、ずつとずつと伝えていきたいと思っています。

この道に進むきっかけとなった高校の担任の先生から始まり、これまでに出会った方々との御縁を大切に、そして感謝をしなから。

日々の向上心を持つて

森めぐみ(旧姓 圓増)

42期 初等教育科 兵庫県丹波篠山市



私の出身は兵庫県丹波篠山市です。家から通学するには時間が掛かるため、一年目は中山手寮、二年目は親戚の家から通いました。

一年目は人生初めての寮生活で不安な気持ちがありましたが入寮してみると各地方から来た友人と親しくなり、厳しい寮の規則も苦になることなく、楽しい寮生活を送ることができました。二年目は親戚の家から通学しました。親戚宅のこととは同じ年で大学は異なるものと同じ教育学部でした。勉強や教育実習の話など、悩みを相談する相手が身近にいたお陰でしんどいながらも充実した学生生活を送ることができました。

短大卒業後は三田市の証券会社に就職し、営業職を十年勤め、結婚、出産を機に退社しました。その後、子どもも大きくなり、再び地元の証券会社に就職しました。そこでも営業職を勤めながらFP2級の資格を取得する等、日々の向上心を持って生活を送っています。

これも学生時代に養った愚直な気持ちで目標を達成する精神のお陰だと思っています。

卒業して三十年以上経ちますが、勉強だけでなく、人間的にも大きく育てて頂いた神戸女子短期大学に心より感謝しています。

「かなめ会」総会報告

令和6年度の総会は、「神戸女子大学教育センター」で、開催しました。一階にあるラウンジでお茶などを用意し、同窓生は、再会とともにしばし学生時代に戻り、お互いの現状報告や思い出話で、盛り上がりました。その際、みなさまから協力していただいたフリーマーケットの売り上げは、石川県能登半島地震被災地に義援金として寄付しました。

期日 令和6年7月13日(土)
場所 神戸女子大学教育センター
議事
・令和5年度事業報告
・令和5年度決算報告
・令和6年度事業案
・令和6年度予算案
・令和6年度役員案

講演 「衣服とさまざまな商品を利用した暑さ対策」
講師 神戸女子大学名誉教授 平田耕造先生

講演 平田耕造先生



行吉学園記念室見学

令和7年度「かなめ会」総会ご案内

本年度の総会は、「神戸女子大学教育センター」で開催いたします。懇親会はいたします。総会終了後は、行吉学園記念室の見学を予定しています。

期日 令和7年7月12日(土)

受付 10時

総会開始 10時30分

場所 神戸女子大学教育センター

会費 無料

講演 (仮)「行吉学園の歩み」

講師 行吉学園名誉理事長 行吉 誠之先生

奨学金給付事業報告

かなめ会では、資質があるにも関わらず経済的な理由で就学困難となる学生に対し、学究生活の支援となることを願い、奨学金を給付する制度を設けています。「給付」等にかかる手続きは短期大学学生課へお問い合わせください。

ミニ同窓会

42期 初等教育科(幹事) 岸本恵美
令和6年7月20日(土) 当時のクラス担任の林孝三先生の神戸大丸での洋画展にあわせて、同窓会を開催致しました。夏の暑い時期にも関わらず、遠方からの参加者も含め総勢11名が集まりました。林先生の展示会を個々に見た後、夜は三宮で集合しました。卒業してから約32年になりますが、林先生も交え、学生時代の思い出をおおいに語り合い、楽しい時間を過ごしました。ミニ同窓会制度を利用させていただき、また集まりたいと思います。



「食物と健康」

「食物と健康」は、学生の健康を願って情報を提供したいという思いから故行吉哉女先生の提案でプロジェクトが立ち上げられ、昭和46年3月から発刊されています。令和6年度からは公式Webサイトのみでご覧いただけるようになりました。



かなめ会ホームページについて

かなめ会のホームページも充実しています。是非ご覧ください。

かなめ会役員募集

同窓会のお手伝いをしてくださる方を募集しております。活動に参加していただける方は、かなめ会までご連絡ください。

かなめ会室から

かなめ会室は、神戸女子大学教育センターの一階にあります。同窓会役員会、会報編集会議などで使用しております。

室内には読み物として、大学の刊行物、同窓会の会報等、その他神戸女子短期大学のこれまでに知ることが出来る資料を様々な用意しております。地域別、学年別、クラス別などで開催のミニ同窓会開催に関するご相談や、同窓生への連絡取り次ぎのお手伝いも行っております。週一回、開室しておりますので、お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。



開室 週一回(水曜日) 10時~16時
所在地 〒650-0004 神戸市中央区中山手通2-23-1

行吉学園神戸女子大学教育センター内

電話・FAX 078-2331-1052

Eメール shiyo-kanamekaiga@yg.kobe-wu.ac.jp

URL https://www.yg.kobe-wu.ac.jp/jc/guide/organization/kaname/index.html

住所・氏名を変更された時は

新・旧・住所・氏名・卒業期又は卒業年度、学科を記入の上 お知らせください。

編集後記

令和6年は、1月に能登半島を地震が襲い、夏から秋にかけて豪雨など自然災害が相次ぎました。神戸女子短期大学におきましても、2025年度入学生をもつて募集停止という大きな出来事がありました。1面に新学長洪先生から、かなめ会に対し、「哉女先生の精神を受け継ぎ、かなめ会員の思いを胸に刻む」という暖かいお言葉を頂きました。今後かなめ会では、総会、会報の発行、ホームページ等を通じて、絆を深めていきたいと思っています。皆様方のご寄稿、ご意見をお待ちしております。

(編集委員同)